

仲多度・善通寺支部メディア教育研究部会活動報告

研究主題

高度情報通信社会におけるメディア教育の在り方 ～ICT教育機器活用の日常化を目指して～

1 はじめに

本支部においては、徐々に整備されつつあるICT教育機器や校内LANをいかに活用して、「わかる授業」に役立てていくかを「活用の日常化」という視点で実践し、結果を相互に共有することを目的としている。各中学校のICT教育機器や校内LAN等の整備実態は様々であるが、よりよい教育活動の実践や教育環境をめざすとともに、教職員のメディア教育の能力向上に努めている。

2 研究の経過

(1) 平成22年4月

香中研仲善支部総会

場所：善通寺市立西中学校

内容：研究組織、研究主題、研究内容

(2) 平成22年7月28日（水）

香中研仲善支部教科外研究会

場所：まんのう町立満濃中学校

内容：各学校の実践発表

電子黒板の利用についての研修

(3) 平成22年8月19日（水）

香中研メディア教育部会夏季研修会

場所：坂出市立東部中学校

内容：四国放送教育研究大会 提案発表

放送教育についての講話

3 メディア機器活用の実践事例

(1) 教科での活用

① 技術・家庭科

ア．学年：第1学年、第2学年

イ．題材：情報とコンピュータ

ウ．目的

- ・コンピュータの基本的な構造と機能を知り、操作ができる。
- ・ソフトウェアを用いて基本的な情報処理ができる。

- ・プログラムの機能を知り、簡単なプログラムの作成ができる。
- ・コンピュータを用いて簡単な計測・処理ができる。

エ．活用内容

- ・プレゼンテーションソフトを用いてパソコンで説明。
- ・ソフトウェアを用いた情報処理やプログラムの作成。

② 英語

ア．学年：第3学年

イ．目的

- ・異文化理解と実践的コミュニケーション能力を育成する。

ウ．活用内容

- ・英語圏の国々の人々とメールでやりとりを行う。

(2) 教科外活動での活用

- ・総合的な学習の時間

ア．人権劇に向けて、様々な人権啓発ビデオ教材を活用した人権学習を行っている。時には、その中のビデオ教材が劇の題材になることもある。その場合は、ビデオ教材をもとに原稿を作成したり、場面をキャプチャーして、背景画のイメージを作成したりする。また、過年度の人権劇VTRは劇作りの際の重要な教材として活用される。

イ．福祉体験学習（1年）、職場体験学習

（2年）修学旅行記の際、全員がパソコンを使用し、計画、体験の概要、感想等について文書作成し、冊子づくりを行った。

- ・道徳

情報モラルやネット社会の危険性を学習する。「ネット社会の影を考えよう」という授業では、長崎県小六女児事件でクローズアップされたインターネット掲示板によるトラブルを題材とし、様々なネットコミュニケーション

ンの危険性を学習した。また、チャット体験をし、安全で楽しいチャットの仕方とともに、チャットの裏側にある危険性を疑似体験した。

(3) その他（学校行事等）

- ・集会等では、ビデオやパワーポイント等を用いて、あいさつ運動や掃除活動など日々の生活で頑張った生徒を紹介し、生徒の意欲の向上を図った。
- ・運動会では、毎年恒例の創作ダンスを行った。各学年ともダンスリーダーを中心に生徒自ら、振り付け等を考えていく。その際、過年度のダンスの映像やミュージックDVDを参考にしている。

4 電子黒板の利用についての研修

(1) 電子黒板の利用状況

電子黒板は、あらゆるメディア機器と連携させて教材や資料を提示することができるため、各教科の授業を中心にあらゆる場面において活用している。メディア機器を接続した教材提示例は、次の通りである。

① DVDプレーヤーとの接続

ライブラリーのビデオ、DVD教材を授業中に上映する。

② インターネット機器との接続

ポータルサイトや検索サイトから直接調べ物をしたり、Web上の動画コンテンツを再生したりする。タッチパネルなので、画面に直接触れてクリックなどの操作をすることができる。

③ パソコンとの接続

プレゼンテーションソフトで作成したものを大きく拡大して提示することができる。

(2) 電子黒板利用の成果と課題

電子黒板の導入によって、様々な教材が提示しやすくなった。従来は、インターネット等からの情報をプロジェクトで映し出していたが、電子黒板を利用することによって、メディア機器に向かうという機会が少なくなり、普通に黒板に板書す

る感覚で使うことができる。そのため、生徒の管理という面からも授業を進めやすいという声も上がっていた。その反面、以下のことについて課題も上がった。

① 設置場所について

電子黒板を設置している場所は理科室やコンピュータ室など一部の教室であるが、本来はどの教科でも利用できる環境を作らなくてはならない。しかし、電子黒板は相当重く、運ぶのに困難だといえる。同じフロア内なら可能でも、違う階に運ぶとなるとかなりの労力を必要とする上、危険もついてくると考えられる。また、タッチパネルを利用するためのソフトウェアの導入も十分にできていない学校もあり、その場合パソコンも同時に移動させなければならなくなる。

② 利用に関する研修の必要性

電子黒板を利用している教科も一部なため、一部の教員しか利用の仕方を理解していない。また、電子黒板の使い方やインストールするソフトなどがあいまいな状態で使用していることや、今はただのパソコンの画面を映し出し、それをタッチパネルで操作するだけで、それ以外にどのような機能があるのか十分に把握していないのが現状である。

これらのことから、職員全体研修が早急に必要であると考えている学校も少なくない。

5 おわりに

「教育の情報化」の施策により、ICT機器の教育現場での活用は、特定の教科や特定の場面だけでなく、学校生活のさまざまな場面で活用することが期待されその有効性も叫ばれている。しかし、校内LANを含めた機器の整備状況などの利用環境の壁や、教職員の活用意識の温度差も大きいのが実状である。本年度は、機器活用の日常化だけでなく、電子黒板の利用についての研修を深めた。今後も会員を中心に各校での教員研修を充実させるとともに、さらなる実践の積み上げと共有を行いながら「教育の情報化」に努めたい。